

令和7年度 第1回たかつコミュニティスクール 議事録

日 時	令和7年5月30日（金）9時30分～11時30分
場 所	神奈川県立高津支援学校 校長室
出 席	学校運営協議会委員7名 事務局 11名
問合せ先	副校長 古川 玉緒 電話 044-865-4921（直通）

1 校長挨拶

- ・新年度2か月経過。児童生徒は元気に学校生活を送っている。高3修学旅行実施 進路に向けて
- ・R7コミスク ご意見いただき前に進めたらと思っている。

2 会長挨拶、委員自己紹介

3 副校長より事務連絡

- ・委嘱状お渡し

4 事務局自己紹介

5 学校評価部会

○ 資料③より

令和7年度 1年間の目標（県立学校は5つの視点で目標を立てている）

1 教育課程

- ・昨年作成した行事スタンダード、今年は具体的な実践を進めていく。
- ・たかつ教育内容系投表 小中高と整理されたことで、指導内容を充実させていく。

2 児童生徒 指導支援

- ・アセスメントスキル 子どもたちの見方として、頭と心と体のそれぞれの観点を丁寧に見ていき、指導にいかしていく。
- ・授業の創意工夫

3 進路指導・支援

- ・進路スタンダード 就労準備性ピラミッドの視点を大事に、高等部だけが進路学習に取り組むのではなく、小1からどのような学びを重ねるか等、キャリア教育を小中高と充実させる。

4 地域等との協同

- ・高津の地域特色をいかして、協同して充実させる。

5 学校管理 学校運営

- ・防災スタンダード 避難訓練は全校体制で、避難所体験防災宿泊を一昨年実施している。
- ・小1から高3までどのように積み上げていくのかを具体化する。

(1) 校務グループの取り組みについて 統括教諭より報告

○ 教育推進 見える可の先に見えるもの

カリキュラム係

- ・作成したたかつ行事スタンダードを使った実践の確認、学習内容の変更、入れ替えを行いよりよいカリキュラムへ。

学事係

- ・主に儀式的行事を担当しているが、口伝が多い傾向。
- ・明文化、見える可をはかる。

研究研修係

- ・教職員の認知発達の理解と見える可 保護者に話す力の向上。

○ 学習支援 学業力向上

- ・人材バンク、サポートシステム、知恵袋、教員の他学部交換を充実させる。
- ・学習の環境整備が重要 古いと汚いは違う。
- ・4つのグループをつなぐグループの役わりを担いたい。

○ 支援連携 支援の室を高める、仕組みのアップデート

- ・資料③
- ・アセスメントスキルアップ 見立てる力のアップ 予防的ケース会の充実。
- ・進路スタンダードの作成。就労準備性ピラミッドの視点 キャリア教育を小中高と積み上げる。保護者にも知ってもらうことも目標とする。
- ・地域連携 秋の遊び場 持続的なイベント運営。
- ・PTA 運営の業務効率化 保護者の負担軽減 二次元コードを使った運営など。

○ 学校管理 想像力で正しく備え 豊かな学びへ

- ・防災に対する学びの積み上げを見える可 防災スタンダードを作成する。
- ・指導案10年分のストックあり 教員児童生徒の初動を特に大事に扱う。
- ・ICT 機器のアナログとデジタルのいいとこどりを目指し、実物、本物を大事にする。
- ・私費会計 先にミスを防ぐ仕組みをつくる。

6 協議（●委員より ○事務局より）

- 予防的ケース会の内容と参加者を知りたい。
- 生徒の実態やご家庭の様子など、緊急度などに応じて赤、黄色、青の3段階で仕分け、危機管理や共通理解を行う。
- 全生徒か？わが子の評価が気になる場所…。
- 保護者にも説明ができる内容にすると、尚良いのでは。
- 『いつでも どこでも だれとでも』のR7は何をするのか？
- まずは教員から児童生徒との関わりに対して取り組んでいく。
- より地域の中での「だれとでも」とは？昔の学校はもっと地域に開かれていたが…。縮小傾向にあるのが残念。
- この目標は子どもを指導するにあたって、子供をどう育てていくかのスローガンとしてあげている。
- 行動で見せてほしい。
- いろいろな取組が目標としてあるが、実現するための教職員の負担は大丈夫か？
- 自分たちで整理してことに取り組む。それがより効率化につながると考えている。
- 自分も校長時代そうだった。「見える化」することで担任の先生も理解しやすくなる。それぞれの目標のネーミングもいいので浸透しやすいのでは。
- 各グループの目標はグループ長の統括教諭が考えたが考えもの。
- 高津支援はアイデアを出し合ってうまく回っているイメージがある。「古いと汚いは違う」といった発言もとても前向きで良い。また、今回の資料にもナンバリングがあり、わかりやすいし見やすい工夫がなされている。認知発達アセスメント、たかつスタンダードのように。わかりづらい指導要領も改善して欲しい。文部科学省も（高津支援学校）を見習ってほしい。
- 資料⑦の学校運営組織がわかりやすい。リーダーを明記すると責任の明確化としても良いのでは。グループリーダーの名前までの記載が良いかと思う。
- 校内では公開している
- コミュニティスクールでは公開してもいいのでは。
- 神奈川の文書は、責任者を明記するルール。
- 保護者にお渡しする文書には明記してはどうか？
- 口頭で説明あるが、文章としての配付はない。
- 参加していない父にはわからない
- 貴重な意見だと思うので、今後の課題としてほしい。
- たかつスタンダードの意味は大きい、価値がある。小中高同じ校舎で生活している支援学校ではないとできない。とても良いのでうらやましい。

- 指導上の事故予防等の観点から 小学部から中学部になる時、同じ教員は一緒に持ち上がるのか？高等部になったとたん、教員が変わってうまく指導できていない場合があったが…。
- 教員免許の関係で学部をまたげないケースも多い。県の人事や教員の状況によるのですべて持ち上がりができる訳ではないのが現状。
- 卒業後、「学校ではこうだったのに、施設では…」と学校と施設の違いの戸惑いがあり、施設でも保護者から不満がくるケースがある。施設と学校の連携で丁寧に引き継ぎが大事だと考える。
- 授業参観を外部機関（地域の方、地域の教員）にも参観できないか？地域の学校や施設と特別支援学校は違うのが当たり前と理解してもらえるのでは。
- 公開授業研究会はあるが地域向け授業参観はない。学校へ行こう週間等、不審者対応やコロナで無くなった。学校を不審者から守れと開かれた学校の調整が難しい。
- 授業参観に施設スタッフが参加できるか？
- 難しい、施設長程度。進路専任が事業所によくきていたことはあったが。
- とはいえ、学校公開を実施してほしいという思いはある。
- 自分たちの授業もあるため、地域の先生が実際こられない現状もある。
- 対応はしている。連絡もらえれば個々の対応を行う。
- 進路決定者は学校の様子を見に行くこともある。
実際の行動が見えることで助かっている。

7 相談支援係の取組について 教育相談コーディネーターより報告

- ・高津支援学校の「教育相談について」

1 教育相談について

- ・校内 主に担任や保護者からの相談、専門職の活用、教材教具の周知、活用
支援連携資料室の使い方など
- ・校外 地域の小中高
小 中 認知発達やご家庭の支援に関することなど
高 インクルーシブ入学者への支援が多い
地域の会議への参加 川崎横浜など

2 校内支援体制充実のために大切にしていること

- ① チームで取り組む
 - ・同じ目的を持ち、足並みをそろえる工程を大事に。
- ② 気づきをどうつなげるか
 - ・より専門的な知識の積み重ねのため、学習会の開催

③ 子ども・家庭を地域で支えていく

- ・相手の考え、環境、思いを知り、情報を整理して見立てていく力
- ・「相手を知り、情報を整理し、仮説、見立てをしていく」ことを大事にしている。

8 協議（●委員より ○事務局より）

- 現状として、高校としての支援級の導入は？分教室とのすみわけは？
- 川北のインクル校のこと。知的障害卒で入学者選抜試験あり。通常の高校と同じ単位が必要であり、分教室は特別支援卒で単位の概念がない。
- 小中を選ぶ保護者のもつ情報量が少なかったことが気になっていた。
- 高卒資格を欲しい方がインクルーシブ校へいく。
- 中の教員が高校のインクルーシブを理解していない、わかっていないことが多い。
- 校長連絡協議会で情報共有できているが、担当者ベースまではしっかり降りているかが課題。
- 中教員向けの学校説明会を本日実施する。あくまでも本校の説明をおこなう。
- 教育相談コーディネーターという立場では小中やインクルの困り感を共有する準備はできている。
- 要請があれば説明をしている。要望無しに何うことは難しい。
- なぜ、相談支援の体制をコミスクの話題にしたのか？
- 昨年の給食や情報教育に引き続き、まんべんなく学校の中について知っていただきたい。
- 服薬をさけたい保護者への取り組みは？
- 校医の精神相談で対応することが多い。
- 病院のソーシャルワーカーに相談することもある。
- 養護教諭や相談支援系のチームで対応できているのが良い。
- 区のケースワーカーや基幹相談事務所など、困り感に対してどうつながるかが課題。
- 校内相談は？看護師や養護教諭は？
- 看護師案はほぼ無し。養護教諭に性教育の対応などをお願いしている。
- 心理職の活用は？
- 児童生徒に寄り添った支援をしている。両分教室も活用している。
- P T O Tは？
- エリアブロックの対応。他校に在籍のため、学期に1回程度の活用。必要に応じてそれ以外も対応してもらっている。
- 特別支援は学区もひろい、発達段階も幅広い。家庭訪問もしているか？
- ケースによって対応している。担任と一緒に家庭状況の確認や区につなげるねらいがある。
- どのパワポも見やすい、見やすい工夫がされているのが素晴らしい。
- 川崎と横浜では行政の仕組みも違うので大変だが、よく対応できている。

9 学校運営の承認

本日の内容について、承認となった。

10 校長挨拶

- ・たくさんの意見、質問ありがとうございました。
- ・今後、コミュニティスクールで中間報告を都度報告していくので、よろしくお願いします。

※事務連絡

- ・8/27（水）次回開催 本校で開催予定。
- ・学校だより『すまいるのたね』2部添付
- ・50周年に向けてInstagramを始めた。ぜひご覧ください。

（学校HPや他の学校広報との棲み分けあり。児童生徒の見た風景となっている。人は写っていない）

【配付資料】

- 資料1 令和7年度 第1回たかつコミュニティスクール開催要項
- 資料2 令和7年度 目標設定（パワーポイント資料）
- 資料3 令和7年度 学校評価報告書（目標設定）
- 資料4 令和7年度 高津支援学校 グランドデザイン
- 資料5 令和7年度 高津支援学校 運営方針
- 資料6 令和6年度 高津支援学校 学校評価報告書（実施結果）
- 資料7 令和7年度 高津支援学校 学校運営組織
- 資料8 令和7年度 高津支援学校 校務グループの取組（パワーポイント資料）
- 資料9 高津支援学校の支援について（パワーポイント資料）
- 資料9 高津支援学校の支援について

学校だより（スマイルのたね）第85号、第86号

以上